

水源地クリーンキャンペーン・エコクラブ探検隊

全国管工事業協同組合連合会青年部協議会

1. はじめに

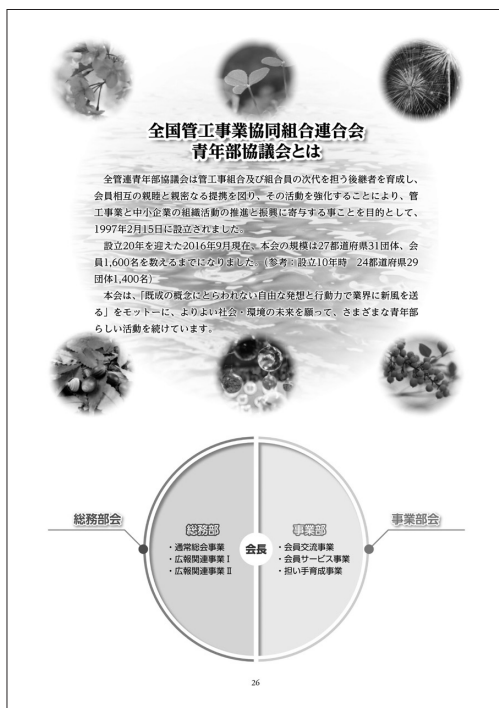
私達全国管工事業協同組合連合会青年部協議会は、上下水道をはじめとした管工事業に携わる企業で構成される全国の管工事組合及び組合員の次世代を担う後継者を育成し、会員相互の親睦を図り、その活動を強化することにより、管工事業と中小企業の組織活動の推進とその振興に寄与することを目的として1997年2月15日に設立されました。現在、その規模は全国28都道府県より34団体、会員数1,600名を超えるまでに成長致しました。その事業内容は多岐にわたり、会員同士の交流や情報共有をはじめとして、管工事業界のPR活動や担い手育成事業や、近年全国各地で多発する災害地での応急復旧ボランティア、そして水に関する様々なボランティアを行っています。本会は「既成の概念にとらわれない自由な発想と行動力で業界に新風を送る」をモットーに、より良い社会・環境の未来を願って、これらの活動を続けていきたいと思っております。



集合写真

2. 水源地クリーンキャンペーン

管工事業は都市のインフラを支える重要な役割を果たしています。特に近年では地震や台風等の自然災害時にも安心安全な水を供給し公衆衛生を守ることのできる上下水道網の構築が課題となっており、その工事を行う管工事業に携わる私達は耐震化などの最新の技術を学び、継承していくと共に資源としての「水」の



大切さを後世に伝えていかなければなりません。そこで私達の全国組織のネットワークを活かし、全国各地の水源地を綺麗にする「水源地クリーンキャンペーン」を1998年より始めました。

この活動は、環境省の環境週間にあわせて全国各地で水道事業に携わる行政関係やさまざまな方の支援をいただき、当会会員及びその家族で水源地の美化活動を展開していきました。また、全国各地で現在まで地道に続けられていて、会員同士の交流を深め環境に対する意識を高めるだけでなく、地域社会とのつながりを持つことで様々な活動に幅を広げていくことになりました。

3. エコクラブ探検隊

水源地クリーンキャンペーンを通して特に子供たちの水環境への関心の高まりを実感し、子供たちが本来持っている環境への感性を磨き、環境に対する自分の責任と役割を自覚する心を育てることが大切だと感じました。その試みとして2001年に「エコクラブ探検隊」を結成し、各地で子供たちと様々な体験学習・研究会・見学会を水源地クリーンキャンペーン期間に実施し環境倫理を学び育てる絶好の機会となりました。

2018年からは、水源地の美化活動だけでなく水に関わるボランティアや様々な事業を会員とその家族で行う活動に幅を広げることで、より多くの方に参加して頂けるようになりました。また2019年からはその活動報告の方法としてフェイスブック（SNS）を利用することにより多くの方に見てもらおう試みを始めました。そしてコンペ形式でお互いに評価し、評価の高い活動を表彰することで会員のモチベーションを高め、現在担い手不足である管工事業界においてより若い世代に興味を持ってもらえるよう努力しています。



エコクラブトップ

4. 活動事例

2001年から水源地クリーンキャンペーン・エコクラブ探検隊と名称を変えて続けてきた活動も昨年度で19年目となり、2018年度は参加15団体、429名の会員と関係者により様々な活動が行われました。その中で会員間で最も評価が高かった活動は熊本市管工事協同組合青年部が行っている「田植えによる地下水涵養事業」です。この活動は熊本地下水財団が行っている水田オーナー制度に賛同し行っている活動です。その内容は、後継者不足により使われなくなった熊本県菊池郡大津町真木地区の水田をお借りして米作りを行うことで、水田に水を張り将来熊本市に流れ込む地下水を涵養することができます。

実際には6月に田植、8月に草刈、10月に稲刈りを自分たちの手で行い、稲のお世話は地元の農業法人にお願いしています。昨年度は22名の青年部員とその家族が参加し作業を行いました。この活動を通して農家の方や色々な方と交流を持つことができ、家族で作業を行うことで農業の大切さを学び会員同士の親睦を深め



活動写真（熊本1）



活動写真（熊本2）

ることができる点が評価されました。熊本の青年部では平成23年から8年間続けてこの活動を行っており、昨年度の地下水涵養量は333平方メートルの稲作で約2,040立方メートルでした。8年間でおよそ16,000立方メートルの地下水を涵養したことになります。また、毎年作ったお米の半分を児童養護施設に寄付することでわずかながらですが社会貢献を行っています。



活動写真（熊本3）

次に評価の高かった活動は横浜市管工事協同組合青年部が横浜市水道局・道志水源林ボランティアの会に賛同して行っている道志水源林の間伐作業です。

近年、横浜市が所有している水源林について計画的に維持管理を行ってきましたが、道志村の約6割を占める民有林の中には高齢化、人口の減少による人手不足などで管理が行き届かない森が増え、水源涵養機能の低下が進んでいるため、水源涵養機能の高い森に再生させるために水源林ボランティア活動の実施を行っています。横浜市管工事協同組合青年部では、この活動に賛同し青年部の発足時から毎年この活動に参加しています。



活動写真（横浜1）

昨年度は総勢65名（横浜市水道局、道志水源林ボランティアの会を含む）で間伐作業を行いました。道志水源林ボランティアの方と安全確認を行い共同で作業することで、通常自分たちだけではできない危険な作業もすることが出来、地下水涵養に貢献していることが評価された点です。



活動写真（横浜2）

また、全34団体でもっとも長く継続してボランティアを行っている活動は東京都管工事工業協同組合青年部長協議会が行っている水辺のゴミ清掃ボランティアです。東京都では平成10年から21年継続して河川や公園などの清掃活動を行っています。

昨年は井の頭恩賜公園において、池周辺のゴミ清掃ボランティアを行いました。同協議会からの参加人数は71名。子供たちの参加も多く、同業者同士仕事を越えた家族同士の交流により親睦を深めることができました。



活動写真（東京1）

その他にも、宮城県管工業協同組合青年部連絡協議会が行った公立保育園のトイレや蛇口などの水回りの点検ボランティア、神戸市管工事業協同組合青年部が行った水栓金具のパッキン取り換え体験ボランティアのように、自分達の技術を活かしながら節水につながる活動も行っています。これらの技術を活かした活動は、単に節水というだけでなく普段の自分たちの仕



活動写真（宮城1）



活動写真（神戸1）



活動写真（神戸2）



活動写真（宮城2）



活動写真（宮城3）



活動写真（富山）



活動写真（新潟）



活動写真（高松）

事を通して得た経験を活かすことができるボランティアであり、他の業種ではできない活動なので感謝されることも多くあります。このように私達は全国組織である団体の特性を活かして、日本各地で様々な方の協力を得て活動させていただいています。

5. 今後の課題

現代の少子高齢化社会、そして建設業界全体に見られる担い手不足の影響は私たちの携わる管工事業も例外ではありません。水源地クリーンキャンペーンから数えると20年以上続けていく中で次の世代の担い手である子供たちに、私たちの活動に興味をもってもらう一定の手ごたえを感じていますが、職業としての管工事業を認知してもらうことは大変難しいことです。震災や台風、豪雨などの自然災害を身近に感じるが多くなった近年において、「水道」というインフラを守る私たちの職業は防災や減災にも大きく関わっており、環境ボランティアを進めていく中で、より地域社会と密着することができ多くの担い手たちに職業としての管工事業へと広げて行きたいと思えます。

6. おわりに

全管連青年部協議会の設立直後から1998年に水源地クリーンキャンペーンとして始まったこの事業は、多くの方の共感を得て活動内容も変化しながら現在へと至ります。しかし、私達のこの活動にはゴールはなく、今後は全国の中学校や高校などと連携して意見を取り入れていくこと等も計画しています。これからも「水」と

ポスター写真

いう限りある資源に関わる仕事をしていく上で、世代交代をしながらボランティア活動を続けていく中、会員だけでなく行政や他団体の多くの方と協力してさらに活動の輪を広げていきたいと考えています。

全国管工事業協同組合連合会青年部協議会